

714 高窪喜八郎君学位を享く

『法学新報』第32卷7(367)号 大正11年7月5日

○高窪喜八郎君学位を享く 中央大学学員高窪喜八郎氏は先般法学博士の学位を授与せられたり氏は明治三十一年我中央大学の業を卒へ直に弁護士試験に合格して其職に就かれたるか由來学問に忠実なる氏は単なる弁護士務に甘んぜず明治四十五年以來法律評論社を設けて法律評論及ひ法律学説判例総覧等を創刊し劇務の傍拮据鞅掌大に学界に貢献し氏の学殖は夙に世の認むる所たり然るに篤学なる氏は研鑽益懈らす取引所法を論すと題する論文を草して東京帝国大学法学部に提出せられ之に因て先般学位を享くるに至れるなり而て氏は当学年より中央大学の為め忙中特に時間を割愛して商法総論及商行為の講義を担任せられたり因に中央大学出身者にして曩に学位を得らたるは花井、大場、林、堀江の四氏なるか今又高窪氏を加へて五人の多数を見るに至りたるは誠に慶賀の至りとす